

放送番組審議会議事録

- 1 開催年月日 平成 27 年 12 月 16 日〔水〕 19:00～
- 2 開催場所 奄美市名瀬金久町 4 番 3 号 2 階 あまみエフエム会議室にて
- 3 出席委員 委員総数 7 名 出席委員数 6 名

出席委員の氏名

楠田 哲、大山 綱治、且 友紀子、圓山 和昭、島崎 仁志、指宿 俊彦

放送事業者側出席者名

丸田 泰史、渡 陽子、手蓑 慎之佑

4 議題

審議(「ディ！お茶ど！」について)

5 議事の概要

- (1) 審議(「ディ！お茶ど！」について)
- (2) 次回の審議議題について

6 審議内容

- (1) 番組内容の審議(「ディ！お茶ど！」について)

楠田委員長:

今回は、内容が「ディ！お茶ど！」という番組でした。

最近リニューアルした番組だと聞いています。担当が、渡さんと作井さんというところで、どうなのかということ、みなさんから色々ご意見をいただきたいと思います。

まずは、今日欠席の西加さんよりご意見をいただいていますので、報告させていただきます。

(西加委員の意見、代読)

「私自身、建築に従事していますので、『ディ！お茶ど！』という号令は馴染み深い言葉です。今回は、『ディ！お茶ど！』のコンセプトにもあるように、休憩の時間にほっとできるような番組になっているのかを考えながら聞きました。15 分間に、島内外の身近な話や世間話、お昼前の料理コーナー、オバとジジネタ、休憩の時間帯に、いいと思いました。パーソナリティーのたまにかむところ、いい間違いをすることが、自然に笑いが出て来てほっとしました。個人的には、作井さんの「やすー！」というのを聞いて、恥ずかしくなる自分と、渡さんの「バクトゥーザフューチャー」を言いづらそうにしているところが面白かったです。」

楠田委員長:

番組を聞いて、ディ！お茶どがどういった狙いがあるのかを考えながら聞いてたんですが、西加さんが言った

ような、3時と10時のお茶の時間に固くならないような、何気ない話をサラサラ〜とやってるんだろうなと思って聞きました。特に意見はなくて、この番組はこのままでいいと思います。作井さんが嘯んだりしているのは、パーソナリティを始めたばかりなので、だんだん経験を積んで、お話できるようになるのではないかと、それも含めてほのぼの聞いていました。

「今日の給食のメニューを紹介したら、晩ご飯がかぶらなくていいんじゃない？」と、うちのばあちゃんが言っていました。

且委員：

可もなく不可もなく。普通ににやにやしながら聞いてしまいました。お料理コーナーが、あるのはいいなと思いました。3手順くらいで終わる簡単な料理で、よかったです。お茶の時間にはいいんじゃないかと思います。

圓山委員：

ゆるい、このゆるさがお茶を飲みながら聞く、ゆるい時間がいい。

タイトル、狙い通りの番組運営になっているのではないかと思います。身の上話とか、会話をしているように感じつつ、次の日も聞きたくなるような、ゆるさをもった一息はさめる番組でした。

指宿委員：

先に資料に目を通さず聞いたので、「なんだこの番組は」と思ったのですが、あとで資料に目を通して、こういうコンセプトだったらいいのかな、と思いました。強いて言えば、渡さんが「フューチャー」を「フーチャー」と言っているところが(笑)。レシピのところでは、自分はあまり料理しないので分からないんですが、ネットに上がっていたら見直しができていいのかな、と思いました。

島崎委員：

今回は、イヤホンをガッツリ付けて集中して聞きました。自分、昔土木の仕事をしていたので、この10時と15時のほっこりする時間帯があるのは、すごいいいなと思います。10時代のレシピは、お昼につながられるんじゃないか、ただ職人さんたちのおなかはすくだろうな〜と料理の想像しながら仕事をするとします。それに合ったお昼を食べるのもいいなと思いました。

3時のお茶どで出てきた、イチダカズオさんの話が、ビックリして。ほとんど身内みたいなものなので、孫が18人いるって言うていたじゃないですか。その孫が同級生なので、そういった目線で聞いて。バスの運転手をやっていた時代も知っていたり、バスガイドをやっていたのが、うちの母親だったり。そういうのを考えると、だからあんなに元気なんじゃや〜と。身内が(話題に)出てると、うれしいですね、客観的に聞いていても。それが、今回は、聞き方を「審議委員」として聴くんじゃなくて、一リスナーとしての目線から聴いた時に、カズオうじいの話が出た時は、単純に心に響きました。島の中にいる人だったら、誰でも当てはまる人が一人でも出てくると思うので、15分という短い時間であっても、おじさんやおばさんの話をするのは、いいことじゃないかな〜と思います。要望は特にありませんが、一リスナーとしての感想でした。

大山委員：

今、島崎さんがいったように、15分間でも聴いて「あのおじっくわあ(=おじさん)、まだ元気してるよ」みたいのをするといいのかな、そういった話題がほっこりして、穏やかで、「うじっくわ、まだきばとんじゃやー(訳:おじさん、頑張っているんだな)」というのが分かるのは、意外と面白い。

朝のときに、料理すごくいいやーと思って聴いていました。卵・ミニトマト1個とかはわかるんだけど、具材をどれくらいの大きさに切るだとか、テレビだと(見て)わかるんだけど、ラジオ聴いてて、調理のところが聴きながらわからないところがありました。料理番組を聴くときには「ざっくりサイコロに切ってください」とか、聴いてる人がイメージしやすいようなレシピの紹介の仕方がいいなと思います。

今日はたまたま、仕事の移動中に島料理の番組を聴きましたが、カップ1杯とか、大さじ1杯はわかるんですが、材料をどういうふうにかットするかどうかの大きさになるのか、そういったのが聴いててイメージがわかかなかったので、ちょっとそこらへんを工夫されたら、聴きやすくなると思います。

夕方、いい選曲でした。夕方、ダレ(疲れ)がまわってきたときに、頑張るぞっていう曲でした。朝の時間帯、午後の時間帯で曲で盛り上げてくれたらうれしい。話の流れで、音楽の位置づけがよかったです。

事務局 渡：

選曲にいつも悩むんですが、ジャンルはどのようなものがいいんですかね？

委員全員：

それは、好き好きだからね～

それっちょやー

大山委員：

15分の構成の中で、その話題に合いそうな中で、ポンと投げていくとか、おもいきり外すとか。その日の天気によっても工夫するといいですよ。

指宿委員：

あと、指のマッサージめっちゃよかった。あれは、集中して聞かんばいかんと思って、最後小指の間接めっちゃやってたですもん。

(一同笑)

楠田委員長：

渡さんの中で、この番組の悩みとかはありますか？

事務局 渡：

この番組の悩みとしては、前半でトークと曲と入れながら、10分間にあまりに凝縮されすぎてるのではないかと

か、オバのコーナーがあってもいいのかとか、すごい悩むんですけど。かといって、トークに自信はないので、いつも悩みながらやっています。

圓山委員：

タイトルからして、テーマがないですもんね。テーマがないということは、逆にパーソナリティは大変だと思うんですよね。「これについての番組！」っていうのがないじゃないですか。

事務局 渡：

ほんとは、みなさんからのおもしろい出来事をもらって、それをどんどん紹介できればおもしろくはあるんですけど、なかなか難しいのがあって。自分の、例えば集落で起こった面白かったこととかを覚えておいて、紹介できればいい、時々スベるときもありますけど。

大山委員：

できるだけ、リスナーの反応をひとつでもふたつでも出て来たら、それをネタにして返すとか。

楠田委員長：

リスナーからの反応って、どんなもんなんですか？

事務局 渡：

たまにですね。一週間に1回とか。

大山委員：

そこで、そういったのに対して、紹介すれば、「あけっ、だれかやってるんじゃや」というのを思いますよね。

楠田委員長：

毎週、なにかテーマがあって、それにまつわるエトセトラみたいなのは、募集はしてるんだよね？

事務局 渡：

1週間で、この番組に関してはテーマに沿ってではなく、全くフリーで進めています。だからこそ、定まらない自分がいるのかな、とも思います。

且委員：

一人でやってるのが大変そうだなと思います。以前は二人でやりましたよね。

大山委員：

やっぱり、リスナーの声を番組の中でひとつでも入れて行ったら、違う反応でくるんじゃないかとも思うし。例え

ば、この料理、アレンジの仕方知ってる人ー！と投げかけると、リスナーを呼びかけて引っ張っていけばいいと思います。

事務局 渡:

イチダカズオさん(トークの話題で登場したバスの運転手)のことは、「バス乗ったことある人ー」って言えばよかったですね。昨日も、その話を聞いた人と話す機会があって、そのバス乗ってたよ、という人と笠利で会ったんですよ。

(ここから、イチダカズオさんトーク。孫が何人、ひ孫が何人…)

事務局 渡:

リスナーへの投げ方、呼びかけ方などによっては、番組をおもしろく出来ると思うので、努力をしていきたいと思っています。

楠田委員長:

リスナーとのやりとりは、メールだけですか？ツイッターもあるんですか？

メールが届いた時には、すぐに確認できる状態ではあるんですか？

事務局 丸田:

ツイッターはないです。

リアルタイムなどところでは、渡が担当している午後のお茶どは、取材に行ってしまうので、特に子どもたちのお昼寝の時間を狙って、集落の取材に行くので、2〜3個ずつ収録して放送しています。メールが来た際には、織り込んでまた録っています。なので、リアルタイムには反応できないですね。朝のお茶どに関しては、生放送なので、すぐに反応できる状況ではあります。

楠田委員長:

反応があれば、うれしいよね。

事務局 渡:

(リスナーへの)投げ方だと思うので、「オバとジジネタ(コーナー)」あるかどうかではなく、自分の持って行き方がヘタクソだと思うので、来年は(頑張ります)。

大山委員:

他のラジオ局を聴くと、リスナーの声を紹介したり、祭事の情報が入ったり、季節のちょっとした情報があったり、そうやってリスナーを巻き込んで行く。一緒になってやっていくといったような、ちょっとしたことでも紹介していくと、「こんなことでも、紹介してくれるんだ！」となりますよね。

圓山委員：

現場に行っても面白いんじゃないですか？「今、何作ってるわけー？」っちって。

事務局 渡：

それは、ちょっとやりたくはありますねー。

圓山委員：

畑に行つて、「ぬーつくり、おばあ(訳:何作ってるの、おばちゃん)」なんて言つて。ほんとの現場のお茶中にお邪魔するのも面白いんじゃないですか？

大山委員：

移動している時に、一服している雰囲気を取材して、紹介するのも。

楠田委員長：

世間の人つて、10時3時つてお茶するんですかね？

事務局 丸田：

オフィス勤めの方は、多分(お茶休憩)されていないんですよ。外現場に従事されている方が、だいたい聴かれているんじゃないかと思います。島は、外現場の人の方が多いのではないのかと思いますので、お茶の合図のきっかけになってくれたらいいなというところと、たわいなく笑える、微笑ましいようなお茶の時間、やがて昼前なので、がんばりましょうね。だとか、終わりまであと少しだから〜と話が出たらいいなと思います。毎度話を変えてトークをしているところがあるので、パーソナリティもネタ詰まりや難儀をしているところです。「お茶の時間だりよつとー」というニュアンスが強いんですが、特にこの時間に聴きたいことはありますか？

楠田委員長：

俺は天気かな〜。天気も、風速も気になります。

事務局 丸田：

外で従事していたら、必要になってきますよね。朝のお茶どは、生放送なので、この後の天候など発表できると思います。気象関係でいうと、潮の満ち引きとか。

楠田委員長：

難しいと思いますが、頑張ってください。

事務局 渡：

持って行き方、オチ、どんな風な投げ方か、課題なので、ほんとうに勉強になりました。

圓山委員:

学校の給食を取り寄せたらいいでしょうね。

フリートークで「今日の学校の給食なんなんっちよー」なんてすると、毎日献立変わるじゃないですか。

(島内の給食事情で盛り上がる)

事務局 渡:

給食、いいですね。

楠田委員長:

それでは、今回の審議はこれで終わります。次回の審議について事務局、お願いします。

事務局 丸田:

次回の審議会は、この審議メンバーでの最後の審議会となります。2月半ばに予定をしています。日程については、調整して改めてご連絡差し上げます。

次回の審議議題について

事務局より、次回の審議議題「ラジオレター」についての説明があり閉会する。

7 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

次回審議会までに改善に努める

8 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法及び年月日

① 自社放送:平成 28 年 1 月 23 日(土曜日)6:30~放送

② 書面の備置き:平成 28 年 1 月 23 日(土曜日)から、当該事項を記載した書面(議事録)を問う法人事務局へ備置き、聴取者の閲覧希望に対応

③ インターネット:平成 28 年 1 月 23 日(土曜日)より当法人インターネットのホームページに転載

9 その他の参考事項 なし